

金沢工業大学に対する相互評価結果ならびに認証評価結果

I 評価結果

評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。
認定の期間は2012（平成24）年3月31日までとする。

II 総評

1 理念・目的・教育目標の達成への全学的な姿勢

貴大学は、1965（昭和40）年の開学以来、時代の要請に応え、工学系大学として学部の充実、大学院の設置、種々の研究所の開設に努め、2004（平成16）年には学部・学科の改組拡充を図るなど、北陸地方の工学系私立大学として、十分にその特徴を示している。「人間形成」、「技術革新」、「産学協同」という建学の理念に基づく教育目標「行動する技術者の育成」は適切であり、目標に向けて有効で創意のある教育を展開している。

また、次代のニーズに応えられる技術者養成という目標に対して、十分な成果を上げることの可能な教育内容と環境が整備されている。中でも、設計教育などを柱とする統合化された教育方式、教育支援に関する体制は、特筆されるものである。施設面の整備も進んでおり、「工学設計棟」「夢考房」「ライブラリーセンター」は充実した内容のもので、教育を中心に活用されている。また、英語教育および情報教育は実践的であり、シラバスもその内容が充実している。

大学院における教育・研究に関しても、総合的に見て、目標達成に向けての真摯かつ積極的な姿勢がうかがえる。しかし、学部比べて大学院に関しては、今後改善が望まれる課題が見られる。教育・研究面で一定の水準にはあるものの、学部と比較して大学院としてのアイデンティティが弱い現状にある。大学院としてのアイデンティティの確立は、学部教育のいっそうの充実にも繋がるものと考えられる。

大学全体として先駆的な取り組みを行い、教育プログラムを能動的に改善していることは、貴大学が有する進取の気性に富むところであり、強みであると判断されるが、反面、比較的短期間に改善・改革を行ってきたことや変化することを以ってよしとし、十分な検証が必ずしもなされていなかった点も散見される。

2 自己点検・評価の体制

貴大学は、教育プログラムの品質、研究プロポーザルと成果、法人経営の透明性や安定性などについて、高等教育機関として「社会から必要とされる大学」であるために、早くから自己点検・評価に努め、第三者評価を受ける仕組みが設けられている。

十年委員会の「専門委員会」として、教育活動の点検を行う「K I T評価向上委員会」、研究活動の点検を行う外部有組織者で組織された「研究評価支援委員会」、経営活動の点検を行う「顧客満足度向上プロジェクト委員会」等が設けられており、教育・研究の目標をはじめとする諸項目について将来の展望も含めた継続的な改善のための検討を行う体制が整えられている。

今後は、自己点検・評価の結果を改善に結びつけていく手続き、組織等をより明確化するとともに、評価結果の公表にも配慮することが望まれる。また、大学院の点検・評価については、新専攻を設置したばかりとはいえ、学部に比べると十分とはいえないので、それらについて今後の充実が期待される。

3 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み

(1) 教育研究組織

学事運営組織、大学教育組織、教育支援組織等、適切な組織であると認められる。13学科を専門領域が比較的近い7つの学系に括り、それぞれの系に5つの専門コアがあるなど、やや複雑ではあるがきめ細かい教育を行う上での形態と理解したい。研究組織も研究活性化に向けた積極的な姿勢が見られ、今後の実績に期待したい。

(2) 教育内容・方法

時代のニーズに応えられる技術者養成という教育目標に対して十分な成果を上げることのできる教育内容が整備されている。修学基礎教育課程、工学基礎課程等の基礎的な教育に対する取り組みは適切であり、特に英語教育での様々な取り組みは評価できる。「自ら考えて行動する」ことを課題として実施されている「工学設計Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」は特色ある教育システムであり、これらを支援する体制も整っている。

貴大学においては、1991（平成3）年以來、米国大学への視察調査活動を実施するとともに、教育改革検討委員会を発足させるなど、教育改善に積極的に取り組み、その成果として1995（平成7）年から「工学設計教育」をスタートさせた。具体的には、「工学設計教育センター」の開設や、学生の正課や正課外での自主的な創作活動を支援するための「夢考房」活動、それらに対する技師によるバックアップなどを通じて、独自の「工学設計教育」の構築と内容の充実を図っている。2002（平成14）年7月には、これらの「工学設計教育」に係わる取り組みに対し、社団法人日本工学教育協会の推薦を受け工学教育賞を獲得し、最高賞である『文部科学大臣

賞』を大学として唯一受賞している。

さらに、教育の成果の指標として就職状況を重視し、成果を挙げている点も評価できる。第三者による検証、学生の授業アンケート、修学支援など、様々な実践も見られる。また、教育点検評価委員会を設置し、全体的な教育効果の測定を行なっている。

学部における国際交流のための制度や運用体制の整備も進んでおり、国内外における研究・教育交流を積極的に推進する姿勢も顕著であるが、実績としては、今後期待される部分が多いのが現状である。

一方、大学院教育については、学部教育が「過程実現型」であることを踏まえ、博士前期課程を「目標達成型」、博士課程後期を「目標設定・解決型」とし、これに基づき教育・研究を行っている。総じて、堅実な取り組みをうかがうことができ、制度的には特色あるものができている。ハイレベルの研究水準にある学外の独立行政法人や民間の研究所と施設設備・研究者の相互交流を活発に行う連合大学院、連携大学院制度も優れた制度である。これらも今後の実績に期待したい。

学位授与については方針、方法ともに妥当であるが、博士については、授与実績のいっそうの充実が望まれる。

(3) 学生の受け入れ

多様な学生を受け入れざるを得ない厳しい状況の中で、大学が求める学生像を明示し、多様な選抜方式を実施し、きめ細かい対応をとっていることは評価できる。一方、合格判定基準や、入学試験成績や合否理由の本人開示など、説明責任の遂行には、さらに配慮していく必要がある。

大学院における学生の受け入れ方針は、学部と比較してややわかりにくい。また、修士課程は一部の専攻を除き大幅に定員超過の状態である。専攻間のばらつきもあり、今後、是正に向けての検討が必要である。博士後期課程の活性化についても検討されたい。

(4) 学生生活

学生の学修環境の整備および進路指導等にきめ細かい配慮が認められる。就学上の問題を抱えている学生への対応は、カウンセリングセンター、修学相談室、Web上の質問投稿ボックスなどきめ細かく行われており、また、効果をあげているものと判断できる。

院生に対しても学部生と同様、学修および生活に対する諸条件の整備は、ほぼ満足すべきものである。ただし、院生のための学修奨励金制度が設けられているが、必ずしも十分でないように見受けられる。

(5) 研究環境

理念・目的における研究活動の位置づけは、「産学一体の学術研究を目指す」であり、多くの附置研究所を拠点とする研究体制が特色となっている。競争的教育・研究資金の交付等、外部資金の導入も実績が上がっている点は評価できる。

(6) 社会貢献

地域の小、中学生、高校生を対象とする「KITサマー・サイエンス・スクール」を、1994（平成6）年から行っている。夏休み期間の大学施設の地域への開放、地元町民を対象とする「インターネット町民塾」、北陸初のコミュニティ放送局「えふえむ・エヌ・ワン」、各種公開講座など、地域を対象とする社会貢献が活発に行われ、成果を挙げている点は評価できる。

(7) 教員組織

大学設置基準が求める専任教員数を充足しており、教育・研究支援体制（学生1人あたりの教員数、教育運営を支援するための職員数、教育補助員数）はほぼ適切な水準にあるが、年齢構成に若干の偏りが認められる。学部と大学院を一貫した教育・研究を行っており、現在は大学院のみに所属する教員はいない。しかし、大学院における研究活動の充実発展のためには、見直しの検討が必要となることも考えられる。

(8) 事務組織

教育・研究を有効に支援できる事務体制が整備されている。教育に係わる機能を有する事務組織としては、大学事務局と教育支援機構という二つの組織が設置されている。教育に関連する各種委員会の諸活動を様々な面から支援する組織として大学事務局が位置付けられており、有効に機能している。なお、研究に関しては、研究支援機構が研究活動の全般的な支援を行っている。

(9) 施設・設備

大学全体としての施設・設備は高いレベルで整備されており、管理も適切に行われているように判断できる。とくに、「工学設計棟」、「夢考房」、「ライブラリーセンター」などの教育・研究支援のための施設・設備の整備が進んでおり、盛んに活用されている。

情報インフラの整備も進みつつあるが、バリアフリー化は、整備途上にある。9つの附置研究所と8つの研究センターが設置されており、院生の研究環境を整える

ことに寄与している。

(10) 図書・電子媒体等

ライブラリーセンターは図書館としての各種の機能を備えるとともに、教育センター、研究センター、卒業生の情報センター、地域の工学情報センターとして、各種の教育・研究支援機能、地域へのサービス機能、外部との情報交流機能等を兼ね備え、内容、規模ともに充実した施設として活用されている。

資料の効率的循環の立場から図書貸出期間を学部生、院生、教員によって変えている。学部生への貸し出し期間が1週間と短く感じられるが、再貸出制度で対応するなど工夫はされている。

図書の選定については各専門の選定委員を置くなど計画的であり、蔵書、電子媒体等も充実している。

(11) 管理運営

明文化された規定に基づき大学の管理運営が行われてきており、特段の問題は生じていないようである。学長の選任においては独自の方法を採用しているが、必要に応じて学長公募制を導入するなど、今後は個性ある学長の募集や選任といったプロセスにも対応できる環境を整備する必要はあろう。

大学院については学長を委員長とする「大学院委員会」が設けられ、特段の問題もなく運営されている。

(12) 財務

予算編成、執行および決算各段階でも種々のチェック・評価機構が実施されており、財政への取り組みに積極性がうかがえる。財務比率においても、大方平均を上回る良好な状況が見られる。

(13) 情報公開・説明責任

ホームページを利用して、卒業生を含め広く社会一般に対する財務情報の公開することが望まれる。また、公開内容については、財務三表のみにとどまらず、解説などを添える工夫が望まれる。

Ⅲ 大学に対する提言

総評に提示した事項に関連して、特筆すべき点や特に改善を要する点を以下に列挙する。

一、長所として特記すべき事項

1 教育研究組織

- 1) きめ細かい教育が行われており、基礎教育に関し、特に、教育支援組織を充実させている点は評価できる。教育課程と教育コアは、有効な仕組みであると判断できる。

2 教育内容・方法

(1) 大学・学部等の教育・研究の内容・方法と条件整備

- 1) 各学系学科の学修教育目標が明快に示されている。修学基礎教育、工学設計教育を中心とする総合化教育やプレースメント英語、プレースメント数学などの導入教育は、有効に成果を挙げており、評価できる。
- 2) 各種の教育支援が行われているが、中でも学生の正課や正課外での自主的な創作活動を支援するための工学設計教育センターの「夢考房」は、技師によるバックアップなどを通じて、独自の工学設計教育を充実・支援する魅力的な取り組みとして評価できる。
- 3) 成績評価基準の透明性、学生からの成績に関する「異議申し立て制度」、フレッシュマンセミナーや「コアガイドブック」、「標準カリキュラムフロー」の配布などによる履修指導、学修支援のための「チューター制度」や「修学アドバイザー制度」など、きめ細かな指導が行われていることなどは高く評価できる。
- 4) 海外におけるデザイン教育の経験を有する外国人教員を招聘して教育内容の検討を行い、独自の「工学設計教育」の構築と内容の充実などの取り組みを継続的に実施している点は評価できる。

(2) 大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備

- 1) 院生の学会での研究発表を推進するために、必要な旅費の一部を補助する制度を設けていることは評価できる。

3 学生生活

- 1) 進路開発センターの活動は学生の就職率向上に貢献しており評価できる。
- 2) 学内美化、教室管理などに学生アルバイトの機会を作り、300人程度(全学生の約4%)がこれに従事していることは注目される。

4 研究環境

- 1) 科学研究費補助金をはじめとする外部資金の導入は、実績を上げている。また、任期を設けない採用とは別に3年任期とした教員も採用していることは

評価できる。

5 社会貢献

- 1) 創造学講座、KITサマー・サイエンス・スクール、インターネット町民塾、北陸初のコミュニティ放送局「えふえむ・エヌ・ワン」、等の取り組みは高く評価できる。

6 教員組織

- 1) 教員1人当たりの学生数が25.1人(教養教育担当教員を含め教員数279名、在籍学生数7,011名)と少なくきめの細かい教育ができる陣容になっている。
- 2) 各センターの教育運営を支援するための職員や教育補助員が多数配置されている。

7 施設・設備

- 1) 野々市キャンパスの施設は充実している。中でも、「工学設計棟」、「夢考房」、「ライブラリーセンター」は、教育施設として特色ある優れた機能を有し、活用されている。
- 2) ほとんどすべての教室にマルチメディア設備が準備され、学内各所に合計約6,000の情報コンセントが設置されていることは情報インフラ整備の点で評価できる。

8 図書・電子媒体等

- 1) 学生の教育・研究支援を行っているサブジェクトライブラリアンシステムは注目に値する。

二、助言

1 教育研究組織

- 1) 国内外の研究機関との協定による連携大学院、地域の大学との連合大学院に、積極的な姿勢を見ることができるとは思われるが、現時点では実績が弱いように思われる。

2 教育内容・方法

(1) 大学・学部等の教育・研究の内容・方法と条件整備

- 1) 学部レベルの国内外における研究教育交流実績をより活発化させることが望まれる。

(2) 大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備

- 1) 論文発表など院生の活動状況を把握するシステムが確立されていない。
- 2) F D活動を通じて教育・研究指導方法の改善が望まれる。
- 3) 学位審査の公明性を保つためには、学位請求論文の審査および最終試験の審査委員の数が少ないのではないか。

3 学生の受け入れ

- 1) 2003（平成 15）年度時点で収容定員に対する在籍学生数比率が、物質システム工学 0.51、先端材料工学 0.59、建築学 1.32、機械システム工学 1.39 と、学科によりバラツキが大きい。これについては、2004（平成 16）年度に大規模な学部・学科の改組を行い、改善されてきているようであるが、今後の推移を見守りたい。
- 2) 修士課程学生の在籍者数は研究科全体で定員の 1.97 倍と多い。また、専攻によるバラツキがあり、システム設計工学 0.78、経営工学 0.85 であるのに対し、機械工学 2.36、建築学 3.00、情報工学 3.05 であり、ひずみの是正が望まれる。
- 3) 博士後期課程の在籍者数は研究科全体で定員の 0.16 倍であり、是正が望まれる。

4 学生生活

- 1) 生活に困窮した学生への対応として、大学独自の奨学金制度が必要ではないか。
- 2) 大学院においては学費減免などの支援制度はなく、修学奨励金も金額的に必ずしも十分ではないとのことであり、今後の充実が望まれる。

5 研究環境

- 1) サバティカル・リープ制度の確立等、教員の研究時間確保の施策が望まれる。

6 教員組織

- 1) 実務経験を有する企業出身者を積極的に採用しているようであるが、年齢構成のバランスを考えると、51 才以上の教員が全体の 60%、定年 60 歳を過ぎた教員が 24.6%を占めていることについては改善が望まれる。
- 2) 教員の任免、昇格に関する基準と手続の整備が望まれる（大学院含む）。
- 3) 系によって教員 1 人あたりの学生数が大きく異なっていることについて改善が望まれる。これについても、2004（平成 16）年度に大規模な学部・学科の改組を行い、改善されてきているようであるが、今後の推移を見守りたい。

7 情報公開・説明責任

- 1) ホームページを利用して、卒業生を含め広く社会一般に対する財務情報の公開が望まれる。

三、勸告
なし

以上

「金沢工業大学に対する相互評価結果ならびに認証評価結果」について

貴大学より 2004（平成 16）年 1 月 29 日付文書にて、2004（平成 16）年度の相互評価について申請があり、また同年 9 月 10 日付文書にて認証評価について申請された件につき、本協会相互評価委員会において慎重に評価した結果を別紙のとおり報告する。

本協会では、貴大学の自己点検・評価を前提として、書面審査と実地視察等に基づき、貴大学の意見を十分に斟酌した上で、評価結果を作成した。提出された資料（金沢工業大学資料 1）についても、不明な点や不足分があった場合には、直ちに連絡するように努め、また評価者には、経験豊富な者を中心に正会員校より推薦いただいた評価委員登録者をあてるとともに、評価者研修セミナー、幹事研修会を通じてそれぞれの質の向上を図るなど、万全を尽くしてきた。

その上で、貴大学の学部・研究科構成に応じて編成した分科会のもとで、本協会が設定している「大学基準」への適応状況を判定するための評価項目について、提出された資料や実地視察に基づき、慎重に評価を行った。

(1) 評価の経過

まず書面審査の段階では、分科会を構成する主査および各委員が、それぞれ個別に書面の点検・評価を行い評価所見を作成し、これを主査が一つの分科会報告書（原案）として取りまとめた。その後各委員が参集して 8 月 13 日に大学評価分科会第 3 群を開催し、分科会報告書（原案）について討議を行うとともに、それに基づいて再度主査が分科会報告書（案）を作成した。財政の評価については、大学財政評価分科会の下部組織である部会で第一次的な検討を行って部会報告書を取りまとめた。その後、8 月 27 日に大学財政評価分科会を開催し、部会報告書について討議を行い、それに基づいて主査が分科会報告書（案）を作成した。その後、各分科会報告書（案）を貴大学に送付し、それをもとに 10 月 8 日に実地視察を行なった。

実地視察では、各分科会より付された疑問等について聴取し実状を確認するとともに、意見の交換、学生へのヒアリング、施設・設備の視察などを実施し、これらに基づいて主査が分科会報告書（最終）を完成させた。

同報告書（最終）をもとに幹事が作成した評価結果（幹事案）については、相互評価委員会正・副委員長・幹事会で検討したうえで相互評価委員会において審議した。その結果は「評価結果（案）」として貴大学に送付し、貴大学から提示された意見を参考に「評価結果（案）」を修正した。同案は理事会、評議員会の議を経て承認を得、最終の「評価結果」が確定した。

この「評価結果」は貴大学に送付するとともに社会に公表し、文部科学大臣に報告するものである。

なお、この評価の手続き・経過を時系列的に示せば「金沢工業大学資料2」のとおりである。

(2) 「評価結果」の構成

貴大学に提示する「評価結果」は、「Ⅰ 評価結果」、「Ⅱ 総評」、「Ⅲ 大学に対する提言」で構成されている。

「Ⅰ 評価結果」には、貴大学が「大学基準」に適合しているか否かを記している。「Ⅱ 総評」には、貴大学の理念・目的・教育目標の特徴とその達成状況等を示した「1 理念・目的・教育目標の達成への全学的な姿勢」、貴大学の自己点検・評価のしくみとそれがどのように機能しているかを示した「2 自己点検・評価の体制」、「大学基準」の充足状況について貴大学の長所と問題点を整理した「3 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み」を含んでいる。

「Ⅲ 大学に対する提言」は、「長所として特記すべき事項」、「勧告」、「助言」で構成される。「長所として特記すべき事項」は、貴大学がその特色ある優れた取り組みをさらに伸張するために示した事項である。ただし、その取り組みがいかに優れたものであっても、一部の教員のみによる事例や、制度の設置・仕組みの整備だけで成果が確認できない場合については基本的に指摘から除外している。

「勧告」は正会員大学にふさわしい最低要件を充たしていない、もしくは改善への取り組みが十分ではないという事項に対し、義務的に改善をもとめたものである。「勧告」事項が示された大学においては、同事項に誠実に対応し、早急にこれを是正する措置を講じるとともにその結果を改善報告書として取りまとめ、原則として2008（平成20）年7月末日までにこれをご提出いただきたい。

一方、「助言」は、正会員大学にふさわしい教育研究上の最低要件は充たしているものの、理念・目的・教育目標の達成に向けた一層の改善努力を促すために提示するものである。「助言」についても「勧告」同様、改善報告がもとめられるものの、それらにどのように対応するかは各大学の判断に委ねられている。この点で「勧告」と「助言」の性格は異なっている。

今回提示した各指摘は、貴大学からの申請資料に基づく書面審査や実地視察の結果、導き出したものであり、必ずしも貴大学の最新動向を完全に踏まえたものとはいえないかもしれないが、前述の「意見申立」手続き等による貴大学からのご意見を参考に、可能なかぎり実態に即した指摘となるよう留意した。

また、合・否・保留の「評価結果」について、異議申立がある場合には、2005（平成17）年4月6日までにご連絡いただきたい。

金沢工業大学資料1—金沢工業大学提出資料一覧

金沢工業大学資料2—金沢工業大学に対する相互評価のスケジュール

金沢工業大学提出資料一覧

調書

資料の名称
(1)点検・評価報告書
(2)大学基礎データ
(3)自己点検・評価報告書における主要点検・評価項目記載状況

添付資料

資料の種類	資料の名称
(1) 学部、学科、大学院研究科等の学生募集要項	平成15年度 金沢工業大学 学生募集要項
	平成15年度 金沢工業大学 AO(アドミッションオフィス)入学/学生募集要項
	AO入学案内(リーフレット)
	平成15年度 金沢工業大学 学生募集要項/工業高校特別選抜
	平成15年度 金沢工業大学 学生募集要項/編入学[推薦試験][一般試験]
	平成15年度 金沢工業大学 学生募集要項[社会人推薦試験]
	平成15年度 金沢工業大学 学生募集要項/工学専攻科[推薦試験][一般試験]
	平成15年度 金沢工業大学 学生募集要項/大学院工学研究科
	金沢工業大学 大学院工学研究科博士後期課程学生募集要項[一般試験][社会人推薦試験]
金沢工業大学 大学院工学研究科博士後期課程学生募集要項[外国人留学生推薦試験]	
(2) 大学、学部、学科、大学院研究科等の概要を紹介したパンフレット	(平成15年度) 2003金沢工業大学 入学案内
	(平成16年度) 2004金沢工業大学 入学案内
	(平成15年度) 2003金沢工業大学 大学院工学研究科 大学院案内
	(平成16年度) 2004金沢工業大学 大学院工学研究科 大学院案内
(3) 学部、学科、大学院研究科等の教育内容、履修方法などを具体的に理解する上で役立つもの	(平成15年度) CAMPUS NOTE 2003(学部新入生用)
	(平成15年度) CAMPUS NOTE SUPPLEMENT 2003(在学生用)
	(平成15年度) CAMPUS NOTE GRADUATE 2003(大学院生用)
	(平成15年度) CORE GUIDE BOOK 2003
	(平成15年度) 金沢工業大学 規則集 2003(学部用)
	(平成15年度) 金沢工業大学 大学院規則集 2003(大学院用)
「金沢工業大学における教育改革への取り組み」ー知識から知恵ー情報倫理に関する学習コース(INFOSS)の利用案内	
(4) 学部、学科、大学院研究科の年間授業時間割表	(平成15年度) 開講科目一覧 CUMPUS NOTE 2003 TIME TABLE pp.7~53 参照
	学部時間割表(春・秋・冬学期別) 大学院時間割表(春・秋・冬学期別)
(5) 大学学則、大学院学則、各学部規程、大学院研究科規程等	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.281~332 参照 [金沢工業大学学則]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.333~359 参照 [金沢工業大学大学院学則]
(6) 学部教授会規程、大学院委員会規程等	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.431~433 参照 [金沢工業大学教授会運営規則]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.434 参照 [金沢工業大学主任会議規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.435~437 参照 [金沢工業大学大学院委員会運営規則]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.438 参照 [金沢工業大学教務部委員会規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.439 参照 [金沢工業大学進路部委員会規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.441 参照 [金沢工業大学厚生補導部委員会規程]
(7) 教員人事関係規程等	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1341~1357 参照 [学校法人金沢工業大学就業規則]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1358~1360 参照 [学校法人金沢工業大学期間契約教職員勤務規則]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1361~1362 参照 [学校法人金沢工業大学非常勤教職員勤務規則]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1363~1367 参照 [学校法人金沢工業大学パートタイマー勤務規則]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1369~1384 参照 [育児・介護休業規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1387 参照 [教職員年次有給休暇に関する取扱要項]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1389 参照 [教職員の病気休暇に関する取扱内規]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1411 参照 [金沢工業大学教員資格審査規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1414 参照 [人材確保の規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1415~1416 参照 [金沢工業大学における任期付教員に関する規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1417 参照 [金沢工業大学任期付教員の再任用に係る業績審査の取扱について]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1418 参照 [研究特別教員規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1419~1420 参照 [外国人教員規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1421 参照 [期間を定めて雇用する外国人教職員の取扱いについて]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1424 参照 [金沢工業大学非常勤講師の教員資格審査に関する規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1426 参照 [客員教員規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1427 参照 [金沢工業大学招聘教員規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1428 参照 [金沢工業大学客員研究員規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1429 参照 [金沢工業大学共同研究員規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1430~1432 参照 [金沢工業大学特別研究員(KIT-PD)規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1433 参照 [ハイテクリサーチセンター事業に係る金沢工業大学特別研究員(KIT-PD)の受入について]
	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1434~1436 参照 [金沢工業大学日本学術振興会特別研究員(PD)の受入れ規程]
	学校法人金沢工業大学 規則集 p.1437 参照 [金沢工業大学非常勤研究員規程]
学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1441~1442 参照 [金沢工業大学名誉教授規程]	

資料の種類	資料の名称
(8) 学長選出・罷免関係規程	学校法人金沢工業大学 規則集 p.35 参照 [学校法人金沢工業大学寄附行為細則(学長の選任・職務解任)第8条]
(9) 寄附行為	学校法人金沢工業大学 規則集 pp.24～33 参照 [学校法人金沢工業大学寄附行為] 学校法人金沢工業大学 規則集 pp.34～38 参照 [学校法人金沢工業大学寄附行為細則]
(10) 理事会名簿	学校法人金沢工業大学 学園役員・評議員 名簿
(11) 自己点検・評価規程	学校法人金沢工業大学 規則集 p.151 参照 [十年委員会規程] 学校法人金沢工業大学 規則集 p.152 参照 [KIT評価向上委員会規程] 学校法人金沢工業大学 規則集 p.156 参照 [金沢工業大学研究評価支援委員会規程] 学校法人金沢工業大学 規則集 p.157 参照 [金沢工業大学顧客満足度向上プロジェクト委員会規程]
(12) セクシュアル・ハラスメント防止関連規程	学校法人金沢工業大学 規則集 p.76 参照 [性差別防止委員会規程] 学校法人金沢工業大学 規則集 p.153 参照 [キャンパス・ハラスメント防止委員会規則] 学校法人金沢工業大学 規則集 p.154 参照 [教育活動適正化委員会規則] 学校法人金沢工業大学 規則集 pp.1385～1386 参照 [性差別防止に関する指針]
(13) 大学と短期大学の関係を説明した書類	該当なし
(14) 大学・学部等が独自に作成した自己点検・評価報告書	平成14年度 授業アンケート 年間分析版[設問A～I 調査結果報告書] 平成14年度 企業・教員・卒業生・在学生 アンケート調査結果[報告書]
(15) 附属(置)研究所や附属病院等の紹介パンフレット	金沢工業大学 場の研究所 金沢工業大学 人間情報システム研究所 金沢工業大学 高度材料科学研究開発センター 金沢工業大学 先端電子技術応用研究所 金沢工業大学 光電磁場科学応用研究所 金沢工業大学 情報通信フロンティア研究所 金沢工業大学 光電相互変換デバイスシステム研究開発センター 金沢工業大学 先端材料創製技術研究所 金沢工業大学 通信技術研究所 金沢工業大学 生活環境研究所 金沢工業大学 研究支援機構が産業界と大学を結ぶ、窓口になります。(研究支援機構) 工学基礎教育センター ESSENTIAL ENGLISH CENTER(基礎英語教育センター) LICENSE2003(能力開発センター) YUMEKOBO 2003夢考房プロジェクト
(16) 図書館利用ガイド等	金沢工業大学ライブラリーセンター 利用案内 100冊目は君が選ぼう! ～SLの薦める99冊～
(17) セクシュアル・ハラスメントに関するパンフレット	セクシュアル・ハラスメント防止に向けて 一教職員の皆様へ CAMPUS NOTE 2003 CAMPUS LIFE p.16
(18) 就職指導に関するパンフレット	就職のための自分の魅力発見ノート 就職のための企業情報収集マニュアル POCKET BOOK 2003 TOMORROW 採用のための大学案内2003 保護者のための就職支援マニュアル お子様が進路に勝ち抜くために知って頂きたいことがあります。
(19) 学生へのカウンセリング利用のためのパンフレット	K. I. Tカウンセリングセンター(学生相談室) 学生のためのガイド K. I. Tカウンセリングセンター(学生相談室) 教職員のためのガイド 学生との建設的なコミュニケーションを促進するためのヒント KITカウンセリングセンター(学生相談室)編 CAMPUS NOTE 2003 CAMPUS LIFE p.15
(20) 財務関係書類	平成10年度 計算書類 平成11年度 計算書類 平成12年度 計算書類 平成13年度 計算書類 平成14年度 計算書類 平成15年度 計算書類
(21) 学園共同体の行動規範	イーグルブック 工学アカデミアの実現をめざして KIT IDEALS 「学園共同体が共有する価値」に基づく信条(行動規範) (ポスター)
(22) 安全指針等	実験・研究のための安全指針 2002年 安全委員会 安全点検チェックリスト、報告書等様式 学生のための安全の手引き おーいみんな 健康増進のために 一特に寮・下宿で生活するみなさんへ

金沢工業大学に対する相互評価のスケジュール

貴大学の評価は以下の手順でとり行った。

2004年	1月29日	貴大学より相互評価申込書の提出
	4月上旬	貴大学より相互評価関連資料の提出
	4月9日	第1回相互評価委員会の開催（平成16年度相互評価のスケジュールの確認）
	4月20日	第414回理事会の開催（平成16年度相互評価委員会各分科会の構成を決定）
	5月13日	相互評価委員会幹事研修会開催（平成16年度の評価の概要ならびに幹事が行なう作業の説明）
	5月20日 ～25日	評価者研修セミナー説明（平成16年度の評価の概要ならびに主査・委員が行なう作業の説明）
	5月下旬	主査ならびに委員に対し、貴大学より提出された資料の送付
	6月4日	第1回大学財政評価分科会の開催
	～6月末	主査ならびに委員による貴大学に対する評価所見の作成
	～7月末	主査による分科会報告書（原案）の作成（各委員の評価所見の統合）
	8月5日	相互評価委員会／判定委員会合同正・副委員長・幹事会（「判断基準」の検討）
	8月13日	大学評価分科会第3群の開催（分科会報告書（原案）の修正）
	8月27日	第2回大学財政評価分科会の開催
	9月～	分科会報告書（修正案）の貴大学への送付
	9月10日	貴大学より認証評価申請書の提出
	10月8日	実地視察の実施、その後、主査による分科会報告書（最終案）の作成
	11月5日	第3回大学財政評価分科会の開催
	11月8日 ～9日	相互評価委員会正・副委員長・幹事会の開催（分科会報告書をもとに幹事が作成した「評価結果」（幹事案）の検討）
	12月6日 ～7日	第2回相互評価委員会の開催（「評価結果」（委員長案）の検討）
	12月13日	評価結果（案）の申請大学への送付
2005年	2月9日	第3回相互評価委員会の開催（貴大学から提示された意見を参考に「評価結果」（案）を修正）

- 2月24日 第422回理事会の開催（「評価結果」（案）を評議員会に上程することの了承）
- 3月22日 第93回評議員会、臨時理事会の開催（「評価結果」の承認）、記者発表